



No. 37 (関西) 共産主義者同盟政治機関紙 編集発行人 平等社 連絡先 大阪市東淀川区田川通3の16 萬建ビル内 平等社 TEL (301) 4555 (但し、5時30分迄) 料金 半年分(12回) 200円(郵送料込み)

民族社会主義的中国核実験反対!

核兵器競争の根源世界帝国主義を打倒せよ!

核潜寄港阻止! 日本核武装反対!

☆東南アジア人民の反帝斗争を支援せよ!

〔関西〕 共産主義者同盟政治局

A フルシチョフ退陣と中国核実験

1 六〇年に現在化し、数年にわたる中ソ対立の激化は、皮肉にも、中ソ対立をよびおこした当のフルシチョフ路線の破産を直接的に結果した。フルシチョフの平和共存路線は、ソヴェートの世界政策として所謂「競争の論理」をその内容としており、社会主義の勝利を、資本主義との20年間にわたる平和共存の間に於ける生産力競争に於ける勝利にすりかえるものであった。「現代の主な規定要因である社会主義体制」の理論「社会主義体制の統一と団結」がその大前提であった。東欧から中国にわたる世界の場における生産資源と労働力を単一の市場に組織し、ソ連圏の生産力上昇として、社会主義の優位を資本主義に誇示しようとしたのである。フルシチョフの構想は、中国、東欧の各国家利益の追求の前に、みじめにも破産し、「ソ連圏」の崩壊は、フルシチョフの平和共存路線の大前提をつきとずし、ソ連は世界政策の再編を強要されたのである。

2 「社会主義」の「国家的利益の追求」

フルシチョフ路線は、美辞麗句の背景にスターリン式の強固なソ連国家利益の追求すなわち「競争の為」と大義各分の裏にかくされるソ連による衛生の取奪というハンガリー事件で暴露された戦後のソ連の構造の積極的再編をみてとった中国は自分の道を歩むことを決意し、後進国市場問題をめぐる各帝国主義相互の対立の激化と、その中で各国家利益の執拗な追求を通じて、政治的対立の深刻化は、中ソあるいはその他の東欧諸国が独自で帝国主義と妥協し、はたして結合する道さえ準備しなされたのである。しかも、帝国主義の市場問題の尖鋭化は

B 中共路線と中国核実験

5 世界革命の波の後退の包囲の下で、帝国主義の労働者階級は多くの妥協と屈服のジグザグの道を強要されてきた。国家の死滅にむかって前進せねばならぬ労働者階級が、帝国主義に抵抗する軍事的にその力量の相当部分をききき、軍事科学の発達を促さねばならぬのも、その妥協の一つである。しかし、共産主義者の行い妥協には、その妥協が必ずしもともどされ、再び原則にたちもどらる契機が、その中に存在せねばならない。中国核実験について我々がなすべきは、核実験は、一般的な軍事力の向上の是非を論じ、核実験という行為そのものだけをとりだして論ずることではない。中国が核実験に与える位置づけとしての核実験にともなう諸政策を総体として評価し、我々の態度を決定することである。

6 今回の核実験がもつ軍事的意味は、比較的小さい。

4 しかし、このフルシチョフ路線は偶然に誕生したのではない。一九五六年ハンガリー事件によるスターリン式の「世界革命論」の破産が明確になると共に生れたソ連及び

C 中国核実験のもたらすもの

7 中国の核実験に於て中共指導者は、この政治的意義をどのようにつかっているであろうか。北京からの報がもたらした第一のニュースは、この核実験が自力更生の勝利として大々的に宣伝されていることである。社会主義建設と国境の枠内に於て追求せねばならぬという強い悲劇の核実験をあたかも国境の枠内で実現することが当然であり、しかもそれが可能であるという一つの思想にたかめられたのも、それが自力更生論である。それは、プロレタリア国際主義を見切りプロレタリアートの国際的統合による先進国の生産力との結合を展望に於て拒否する扱い難い民族主義の思想である。

8 さて、この核実験が東南アジア人民の反帝斗争に対するアメ帝階級政策に對抗する斗争への無言の圧力的支援になるという見解がある。

9 ともあれ、中国核実験の影は巨大である。何よりも、この中国核実験にあらわれた国家利益追求の論理は、全ての国の支配者に対し、そうした利己的な追求を強要する。中国核実験をめぐって起つてくる日本の国内状況は、何よりもその事を明確に物語っている。ブルジョア・ジャーナリズムは一言に日本の未来を論じ始め、その国家利益の問題をクローズ・アップさせている。日本の実力の不足をなげき、激動する世界に対する積極的方針のなさをなげいている。そして、それは昨年来強まっているナショナリズム再興の思潮と共に日本のブルジョア支配者を突き上げる巨大な奔流となっている。そこでは社会党の「全ゆ

10 果てしなき核兵器競争展開の根拠は、生産力の果敢な発達、もはや資本主義生産様式のもとでは、たえられぬ時点まで達し、逆に人類に敵対して帝国主義に包圍されることである現代そのもの悲劇である。

未だ打倒されぬ帝国主義の存在と、国家競争の論理の展開、そして、その国家的利益を無媒介に結合し、命の波の後退によって取り残された労働者階級は組みこまれ、現実政治の網の目の下に於けるような本質的な変化をも与えることは出来ぬものである。それは、第に要請しつつある姿、そこから発現され、一國社会主義の展開、こうした悪循環は、帝国主義が全世界に打倒されるまで永遠に続くことを示唆する。

我々は、それ故一切の斗争の意識を、自然発生的な反戦の意識を、この現代社会への種々な不信を帝国主義打倒の意識と闘いへと組織していかねばならないのである。中国核実験にあたって、我々のとらねばならぬ中心的な態度は、中国の核実験政策をばかたて、帝国主義に對する自分の斗争を強めて強化することである。そして、その際「中国労働者階級」防衛必要「核実験支持」という単純論理によつては、こうした暴露と闘いの強化は絶対に不可能である。なぜなら、前後した如く第二次大戦の政治課程に於て、反戦・反核兵器への大衆の熱情を、支配者の支配の反逆への大衆斗争の基礎ともなってきた。そうした意識は世代的交代と密着情勢の推移の中で、次第に変質をとげつつあるといえぬ。また、闘いの重要なファクターを形成している。この意識と自己を切斷したところ、如何なる暴露もその有効性を保持しない。

この単純論理は、核実験を一切の政策体系から切りはなして論ずる抽象世界へ大衆を導くという点に於て、さらに、現代の複雑な過渡期の性格に對する無知から帝国主義に包圍されることによつて必然化させる労働者階級の「国家政策」を、それ自体はいかなるものであると妥協的政策である。プロレタリアートの世界的利益を無媒介に結合し、命の波の後退によって取り残された労働者階級は組みこまれ、現実政治の網の目の下に於けるような本質的な変化をも与えることは出来ぬものである。それは、第に要請しつつある姿、そこから発現され、一國社会主義の展開、こうした悪循環は、帝国主義が全世界に打倒されるまで永遠に続くことを示唆する。

我々は、大衆の中国反対の意識の中に全力をあげて奮起し、その闘いの点も有能なる組織者になることを期し、我々の観点を全力を挙げて広めねばならないのである。さらに、他方、中国核実験反対を核潜ETCの帝国主義に對する斗争との結合を拒否した形で提起する傾向にも断乎として闘わねばならない。

そうしたあり方は、大衆の所謂素朴な感情を、意志表示の段階におしとどめ、従つて、最も優秀な分子の組織を拒げ、優秀な分子の活動を拒げ、逆に帝国主義の逆宣伝の中で戦力を喪失しつつある大衆をより困難な局面におとしこむだけである。そして「核兵器禁止のための核兵器」という帝国主義の攻勢ナショナルリズムの宣伝の前に見事にその足元をすくわれるであろう。我々の道は極めて困難である。こうした二つの単純な対応の仕方を拒否する以上、我々の観点を広めるためには、これらの単純論者数倍する働きが要請されるのである。その為に全同志は直ちに配置につかねばならない。

